

三重県障がい者スポーツ大会ボッチャ競技規則の解説

ボッチャ競技は、他競技に参加機会の少ない重度身体障害者のスポーツ参加を目的に 2021 年より全国障害者スポーツ大会に導入される。そのため、日本ボッチャ協会競技規則を基準に、重度身体障害者が負担なく競技できるよう配慮した、本大会独自の規則を設けている。

第 1 節 競技を行う際の心構え

ボッチャの競技を行う際の心構えは、的・味方に関係なくよいプレーは賞賛し、ミスを責めるような言動は、選手・観客・指導者全てにおいて控えること。また、賞賛する場合を除いて、静粛に観戦することが望ましい。

第 2 節 ボッチャの障害区分

ボッチャの障害区分は、すべて投球時の姿勢を基準とする。

(1) 車いす利用者・座位者

- (ア) 四肢麻痺者・対麻痺者・片麻痺者等、車いすまたは椅子座位で競技をする選手。
- (イ) 投球はできるが車いすの方向を変えたり、移動したりすることが機能的に困難な選手。
- (ウ) 投球することが困難で、ランプを使用して競技する選手。

※ (イ) 及び (ウ) の選手は、1 選手に 1 人競技アシスタントが認められる。

(2) 立位者

立位で競技する選手。杖や下肢装具の使用の有無に関わらず、走ることでできない選手を対象とする。競技においては、日常的に車いすを使用している者でも、投球時に立っているかどうかで判断される。

第 3 節 競技アシスタント

- (1) 車いす使用者のうち、移動したり、方向を変えたりすることが機能的に困難な者及びランプ使用者について、選手 1 名につき 1 名の競技アシスタントを認める。
- (2) 競技アシスタントは移動すること、方向を変えること、ボールを渡したり握らせたりする等の投球を補助するものであって、選手の意思を離れて競技に介入することは許されない。競技アシスタントが選手の意思を離れて競技に介入していると審判及び大会主催者が判断する場合、反則行為として罰則を受ける。(罰則の条項参照)

第 4 節 コーチ

試合に出場する選手には、コーチを 1 名配置することができる。コーチはエンドとエンドの間に選手に指示を出すことができる。

第 5 節 競技手順

競技は、以下のような手順で進められる。

(1) 競技の準備

競技を開始するにあたって、審判の指示のもと、コイントスにて投球順序（使用するボールの色）がどちらとなるかを決定する。

(2) ボールの準備

選手は、自分たちが使用するボールを持って、試合に臨むことができる。

また、ジャックボールは各選手に 1 つだけ用意することができる。これより多いボールを試合に持ち込んではいならない。

(3) 投球位置への配慮

選手は、競技を始める際に審判の誘導を受けながら投球位置に配置される。なお、コーチは、エンドライン側のコート外で待機する。

(4) 投球練習

試合を始める前に、6球のボールと、1球のジャックボールを2分以内で投球練習することができる。2分が経過したとき、投球練習は終了される。

(5) 試合の宣告

審判は、赤・青の両選手が投球位置に配置されていることを確認した後に、互いにあいさつを促す。次に、ジャックボールを赤の選手に手渡し、コート外に出ると「ジャックボールプリーズ」というコールをもって試合の開始を宣告する。

(6) ジャックボールの投球

赤の選手は、審判が試合の開始を宣告した後に、コート内の任意の箇所にジャックボールを投球する。この際、コートを区切るラインを越えたり、Vラインを越えなかったりした場合はアウトボールとなり、ジャックボールの投球権は相手選手に移る。

(7) 第1球目の投球

ジャックボールが首尾よくコート内の任意の箇所に投球できた場合、ジャックボールを投球した選手がそのままボールの第1球目を投球する。このとき、第1球目がコートを区切るラインを越えてしまった場合は、同じ選手がボールをコート内に投球することができるまで投球する。

(8) 第2球目の投球

ジャックボールを投げた選手がボールの第1球目を投球できたら、相手選手が相手ボールの1球目を投球する。このとき、相手の第1球目がコートを区切るラインを越えてしまった場合は、同じ選手がボールをコート内に投球することができるまで投球する。

(9) 第3球目以降の投球

両者のボールが投球されたら、ジャックボールに対してより遠い位置に配置されたボールを投球した選手が投球する。

ジャックボールに対しての遠近の配置が入れ替わったとき、投球する選手も入れ替わる。

これは、投球するべき手持ちのボールがすべて投げ終わるまで行われる。

(10) 各選手の持ち時間

ジャックボールを含めた各選手の投球時間の合計は、1エンドあたりそれぞれ6分ずつとする。なお、罰則にかかる追加の投球については、別の計測とする。

(11) エンドの終了、点数の計算

両選手の投球すべき手持ちのボールがすべて投げ終わったとき、審判はエンドの終了を宣告し、その後、第1エンドの獲得点数の計算を行う。点数の計算方法は以下の通りとなる。

①ジャックボールに一番近いボールを投球した選手が勝者となり、得点を得る権利を有する。

②ジャックボールに最も近い敗者選手のボールを基準とし、そのボールとジャックボールの間にある勝者選手のボールが、全て得点対象となる。

③ジャックボールに一番近いボールが、両選手とも同じ位置に配置されている場合、そのボールはすべて得点対象となる。

審判が得点の計算が終わったら、選手と観客に試合の点数が宣言される。点数が宣言され、審判に促された後、ランプを使用する選手の競技アシスタントはコート内を見ることができる。ただし、試合の結果に介入することはできない。

(12) 次エンドの実施

次エンドの実施は、ジャックボールを青の選手に手渡し、以後は第1エンドと同じ手順で

行われる。

(13) 勝敗

競技は2エンドマッチで行われ、第2エンド終了時の総得点の高い選手が勝利となる。

(14) 同点時の対応

① (タイブレイク) 2 エンド終了時に同点だった場合は、コート中央のクロスにジャックボールを配置し1球ずつ投球してジャックボールにより近いボールを投球したほうを勝者とする (ファイナルショット制度)

② 投球順序は、タイブレイクエンド開始前にコイントスで決められ、先に投球する選手のジャックボールが使用される。

(15) 競技の終了

競技がすべて終了し勝敗が決したとき、審判は選手に勝敗と得点の確認を図り、承諾サインを得る。承諾サインが得たのち選手はコートから退出する。

(16) 順位発表

① プールの全試合終了後、審判団が順位を発表する。

② 順位が同率の場合は、該当選手同士によるタイブレイク (ファイナルショット制度) で順位を決定する。

第6節 その他

競技を行う上で、この規則にない状況があった場合、全て大会主催者の判断が尊重される。

また、以後のボッチャ競技の充実、発展のため、どのような措置をとったかを記録し、申し送ることが望ましい。